

令和8年度



市毛小学校グランドデザイン

学校教育目標

夢や希望に向かって進む、心豊かでたくましい児童の育成

【校訓】

礼儀・協力・責任

【本市の教育目標】

- 夢・感動・笑顔がひろがる教育のまちひたちなか
- ひとりひとりの能力を開発し、豊かな人間性をつちかいます
- じょうぶな身体をつくり、たくましい心を養います
- 家庭や地域と力を合わせ、豊かな心を育みます
- ふるさとを愛し、協力し合う心を育てます
- 世界に視野を広げ、国際人と

【茨城県教育の目標】

- ひとりひとりの能力を開発し、豊かな人間性を培う
- じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う
- 郷土を愛し協力し合う心を育てる

【茨城県総合計画】

基本理念
「活力があり、県民が日本一幸せな県」

【めざす学校像】

- 創意と活力に満ちた学校
- 安心・安全で信頼される学校
- 保護者・地域と共に生きる学校

【めざす児童像】

- 自ら考え、行動する子
- 思いやりのある子
- 元気でたくましい子

【めざす教師像】

- 人間性豊かな教師
- 個に寄り添う教師
- 確かな力量のある教師

合い言葉 **い**っしょうけんめい **ち**からをあわせる **げ**んきな市毛っ子

【組織目標】一人一人が輝く学校づくり

確かな学力の向上

【グループ目標】自ら問いを発見し、自分に合う方法で解決に向かい、まとめ、振り返ることのできる児童を育てる。

- 自ら学び、探究する児童の育成
 - ・問いの発見と解決における学習過程の工夫
 - ・個別最適な学びと協働的な学びの充実
 - ・学習意欲を向上させる手立て
 - ・ICTの効果的な活用
 - ・一部教科担任制の積極的な実施
 - ・家庭学習の目標設定と振り返りの実施
- 個に応じた指導の充実
 - ・自由進度、自己調整学習の推進
 - ・AIDRILの活用
 - ・個の実態に応じた学習支援
 - ・ユニバーサルデザインの視点による教育活動の工夫・改善

- ①自分の考えを書いたり伝えたりすることができる児童： 90%以上
- ②家庭学習の習慣が身に付いている児童： 85%以上

豊かな心の育成

【グループ目標】児童の自己肯定感・自己有用感を高め、豊かな心と将来の夢を育む。

- 支持的風土に満ちた学校・学級経営、「共に生きる」を視点とした教育活動の推進
 - ・自己肯定感、自己有用感の育成（今日のMVP・ほめ言葉のシャワー）
 - ・教育相談の充実、i-check等アンケート活用
- 道徳教育、人権教育の充実
 - ・先手挨拶運動、思いやり・寛容の心の育成
 - ・いじめをうまない、傍観しない集団づくり
- 特別活動の充実
 - ・自治的活動の推進（学級会・委員会・行事）
 - ・交流活動の充実（縦割り班活動、異学年交流、一人一人の活躍（出番）の場の設定）
 - ・体験的な活動の充実
- 読書活動の推進
 - ・朝の読書、読み聞かせボランティアの活用

- ①自分の頑張っているところが言える児童： 80%以上
- ②友達の頑張っているところや良いところが言える児童： 80%以上

健やかな体

【グループ目標】体力の向上や健康・安全のための実践力の育成を図る。

- 運動の日常化
 - ・体育の授業の質的向上（外部講師の活用）
 - ・多様な動きの経験、体づくりの充実
 - ・外遊び（ロング昼休み・業間運動）の奨励
- 自己管理能力の育成
 - ・望ましい生活習慣確立、食に関する指導の充実
 - ・「早寝・早起き・朝ご飯」
 - ・「立腰タイム」の実施
- 危険予測、回避能力向上に向けた指導の充実
 - 【自分の命は自分で守る】
 - ・安全指導（生活・交通・災害）の充実
 - ・避難訓練、引き渡し訓練の実施
 - ・地域人材や外部講師の積極的活用

- ①休み時間には、外で元気に活動できる児童： 80%以上
- ②交通安全のルールなどの生活のルールを守り、安全に学校生活を送っている児童： 80%以上

地域とともにある学校（連携・協働）

- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
 - ・学校運営協議会の活性化、地域社会と連携した学校運営の推進
- 地域人材等の活用、体験活動の充実
 - ・保護者との連携、教育支援ボランティアの活用、SC等専門家の活用
 - ・自治会、二中学区地域の輪をつくる会等との連携
 - ・保幼、小、中、特別支援学校等との連携や接続強化（近隣の小学校とのオンラインによる交流学習の推進も含む）
 - ・学校だより、学校公開、学校HP等による情報発信

サービス規律に向けた取組

- サービス規律の確保に向けた学校コンプライアンス研修等の充実
 - ・風通しのよい職場環境づくり
 - ・トップダウン「One IBARAKI」、「たいせつです」運動
 - ・ボトムアップ型研修の継続（月1回）
 - ・「不祥事を一件も起こさない」、自分事として考える意識の向上

教職員の資質向上

- 教員評価等の効果的な活用
 - ・市立学校運営方針2026「学校アップデート・プロジェクト（SUP）」に関するRPDCAサイクルの実践（全教職員参加）
- 教職員の育成を目指した研修体制の整備 ～SUPとの連鎖を図りながら～
 - ・求める研修 ・OJT推進 ・研修の工夫 ・他校参観の推奨（教科等指導、学級経営、生徒支援、ICT、特別支援教育等）の充実
- 教職員の危機管理意識の高揚
 - ・食物アレルギー対応の面談、研修の実施
 - ・学校及び通学路の安全点検の強化

働き方改革の徹底

- ・教職員のパフォーマンス向上のための働き方改革（業務量管理、繁忙期の分掌変更・平準化、ICTを活用した校務処理、会議の縮減等）
- ・一部教科担任制の実施 ・学年の共通教材の活用